

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)

【公表番号】特表 2005-511140 (P2005-511140A)

【公表日】平成 17 年 4 月 28 日 (2005.4.28)

【年通号数】公開・登録公報 2005-017

【出願番号】特願 2003-548731 (P2003-548731)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/82 (2006.01)

A 6 1 F 2/84 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 29/00

A 6 1 M 29/02

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 29 日 (2005.11.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プロテーゼを体内管腔に送るための器具であって、
通路を有するカテーテルと、
通路の中に少なくとも部分的に半径方向に潰れた形状で保持されている筒形プロテーゼと、

前記プロテーゼを前進させることによってプロテーゼを外転させて半径方向に拡張させるように、プロテーゼを通路から前進させるための手段と
を含む器具。

【請求項 2】

筒形プロテーゼが網目状の管を含む請求項 1 に記載の器具。

【請求項 3】

プロテーゼが活性物質源を支えている請求項 1 または 2 に記載の器具。

【請求項 4】

プロテーゼの固定端部がカテーテルの外側表面上に外転させられており、前進可能な端部が通路内に残っており、さらに、プロテーゼの中間部を遠位方向に押しプロテーゼの先端部を外転させて固定端部に対して前進させるためのプッシャをさらに含む請求項 1 から 3 までのいずれかに記載の器具。

【請求項 5】

プロテーゼの一部を切断してこの部分を体内管腔の中に残すことができるようにするための切断手段をさらに含む請求項 1 から 4 までのいずれかに記載の器具。